

9. 四国（地域別調査機関：四国経済連合会）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる やや良くなる	衣料品専門店（経営者）	・昨年、出足が非常に悪かったということもあって、今の暖冬が続けば、春物の出足はそこそこ良さそうである。懸念としては、レディースのパンツ（ジーンズ）が昨年とは大きく変わったので、どんな商品でカバーできるかということである。
		乗用車販売店（従業員）	・ガソリンの単価が少し下がりがつつあるので、平成17年位の相場になれば景気も良くなる。
		旅行代理店（従業員）	・シルバー層を中心に旅行需要は復活してきており、4～5月にかけて絶好の旅行シーズンを迎えるので景気は良くなる。春から夏にかけての新しいパンフレットも続々出て来ているので、これから旅行ムードが盛り上がってくる。
		タクシー運転手	・四国八十八が所参りの仕事が多々出て来て、今よりは良くなる。
		通信会社（営業担当） 観光名所（職員）	・新商品の発売キャンペーン等により、売上が伸びる。 ・建物の改修工事が終わり、入場者数がだんだん増えて来ている。
変わらない		商店街（代表者）	・3月は観光シーズンであり、また、10日間ぐらい連続で商店街中心で行われるイベントや花見等もあるので、来客数は増えるが、なかなか景気が良くなるということまでは行かない。
		商店街（代表者）	・年末年始は昨年よりも販売量や来客数等が多かったが、成人式明けからは昨年並みの動きとなってしまっている。
		商店街（代表者）	・悲観的材料があまりに多く、経営者の自助意識まで低下しつつある。
		百貨店（営業担当）	・来客数は大幅に増加したが購入に結び付かない。年頭の初売りやクリアランスは来客数・売上共に大幅増となったが、中旬以降は当用買いが目立ち伸び悩んだ。ブランド商品群も堅調に推移したが、購入単価がやや下がっている。
		スーパー（予算担当）	・鳥インフルエンザ問題など食の消費に影響する問題も生じているが、信頼できる企業であれば、客足が逃げることもない。
		スーパー（統括担当）	・1月以降、客単価がこれまでの98%ぐらいから95%に一気に落ちたので、これ以上は悪くならない。
		スーパー（財務担当）	・ノロウイルスの影響が下火になったかと思えば鳥インフルエンザ問題が発生し、2月の売上に影響が出そうである。
		コンビニ（店長）	・県内の就職先を探していたアルバイト学生も、県内には良いところがあまり無いということで、県外に目を向けて動き出している。そういうことから、都市部ではそれなりに景気が上昇してきているが、地方はまだまだである。
		衣料品専門店（経営者）	・今春、市内郊外に大型ショッピングセンターが開店予定であり、中心商店街との客の争奪戦が激しさを増すことから、客離れを懸念している。
		家電量販店（営業担当）	・販売量が増加する要因が2～3月はまだ乏しく、当面現状のままである。
		乗用車販売店（従業員）	・3月の決算期を間近に控え、買換えが見込める客は多いが購買に至っていない。
		乗用車販売店（営業担当）	・1～3月期というのは年間の最需要期に当たるが、1月が終わった時点では、過去にないほど悪い。
		住関連専門店（経営者）	・販売量が伸びない状況がずっと続いている。
		観光型旅館（経営者）	・2～4月ごろの予約状況が昨年と比較して良くない。国内旅行は増えているが少なく、見通しはあまり良くない。
		タクシー運転手	・客から、給料上昇、ボーナス上昇という声がほとんど聞かれない。また、夜も昼もタクシー利用が少ない。
観光名所（経営者）	・予約は前年並みである。		
ゴルフ場（従業員）	・客の様子、来場者数、予約数をもても、変わらない。		
設計事務所（所長）	・首都圏の不動産ファンドなどから土地の買い注文が入っており、地価が上がる気配がある。そうなると景気に水を差す可能性もある。		
やや悪くなる		その他専門店〔CD〕（店員）	・パッケージソフト離れがまだまだ進んでゆくの、まだ景気は回復しない。
		都市型ホテル（経営者）	・今年は、昨年の大河ドラマのように高知が注目されるものがなく、景気はまだ下向きである。

		設計事務所（職員）	・安値受注競争などに加えて、さらに事業量全体が減少する傾向にあるため、過当競争が一段と激化する。
	悪くなる	-	-
企業 動向 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	木材木製品製造業（経営者）	・年度末を迎えて工事の駆け込み需要が発生する。また、暖冬で順調に仕事が進んでおり、着工数も依然として多い。
		建設業（総務担当）	・ある程度の受注残高が確保できたので、今後は赤字受注は無くなっていく。
		通信業（営業担当）	・パソコンの新しいオペレーティングシステムの発売が始まり、アプリケーションを含めた新たな個人消費の起爆剤になる。
		通信業（支店長）	・番号ポータビリティの影響が少しずつ緩和されていくため、今の、販売の割には純増数が増えない状況は改善される。
		広告代理店（経営者）	・郊外のショッピングセンター及び量販店の新規オープンに伴う広告が多少見込めるため、やや良くなる。
	変わらない	繊維工業（経営者）	・一部に受注が増加しているところもあるが、全般的には上向いていない。
		一般機械器具製造業（経理担当）	・クレーンのチャーター料金の改善が首都圏を中心に顕著になってきており、その他の地域にも徐々に広がりをみせている。高所作業車も電力・通信のインフラ整備工事がおう盛で、多忙な状態が続いており、まだしばらくはこの状況が継続する。
		一般機械器具製造業（経理担当）	・19年9月からの新長期排ガス規制に向け、メーカーが所有する在庫（適合車以外）の前倒し受注の見通しが不透明であるが、大きく受注が後退することはない。
		電気機械器具製造業（経営者）	・売上は横ばいがずっと続いているが、肝心の利益は、競争で非常に少なくなっている。
電気機械器具製造業（経営者）		・受注量に回復の兆しが見えない。	
輸送業（役員）		・原油価格も落ち着き、悲観的な要因はないが、国内における原材料、個人消費関連の物流の増加は期待できない。	
不動産業（経営者）		・ごく一部の業者は受注・販売が活況のようであるが、ほとんどの業者は非常に厳しい。今の状況では、数か月後の状況がどのように変わっていくか目鼻が付かない。	
公認会計士		・各社社長と話をしたが、景気が良くなっているという実感を持っている人は非常に少ない。設備投資にしても、慎重に考えざるを得ないという人が非常に多く、当分の間、このような状況が続く。	
やや悪くなる	金融業（融資担当）	・昨年秋口から暮れにかけて県内で大口倒産が相次ぎ、その影響を受ける企業も多く、心理的にも消費が停滞している。	
	悪くなる	-	-
雇用 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	求人情報誌製作会社（従業員）	・企業が、長期の求人を求めているのが感じ取れる。
		民間職業紹介機関（所長）	・求人企業の業種の偏りがあまり無くなり、業種の幅が広がっている。
	変わらない	人材派遣会社（支店長）	・増員や減員の話はほとんど聞かない。総労働者数はしばらく横ばいが続く。
		人材派遣会社（支店長）	・正社員の採用に力を入れるため、派遣の長期案件は増えない。
		求人情報誌製作会社（編集者）	・中小企業の駆け込み受注がある程度見込まれる。ただ、中途関連は1月中に掲載しないと4月採用は難しくなるので、2～3か月後は少し厳しくなる。
		職業安定所（職員）	・新規求人数は増加傾向が続くものの、正規労働者の求人数はあまり伸びないことから、景気はあまり変わらない。
		学校〔大学〕（就職担当）	・今の時期は採用活動が端境期である。また、中央で言われるような景気上昇がまだ地方に及んではない。
	やや悪くなる	人材派遣会社（支店長）	・大型の百貨店、スーパー等の進出により約1000人弱の雇用が創出されたことは、地域にとっては非常にいいことであるが、県下で人不足感が非常に強まっている中で、これだけ大量の雇用が創出されるということは、当社にとっては非常に厳しい。
		職業安定所（職員）	・非正規雇用からもあぶれ、年金も未受給の高齢者が増加しており、消費も落ち込む。
	悪くなる	-	-